

兵庫県指定文化財一覧表

種 類	名 称	員数	所在地	所 有 者 (管 理 者)	
重 要 有 形 文 化 財	建造物	いなのじんじゃ 猪名野神社 ほんでん へいでん はいでん 本殿・幣殿・拝殿	3 棟	伊丹市宮ノ前3丁目6番	宗教法人 猪名野神社
	建造物	たいしゃくじほんどう 帝釈寺本堂	1 棟	美方郡香美町香住区 下浜 599	宗教法人 帝釈寺
	歴史資料	めいしんでんしゃしゃりょう 明神電車車両	8 輛	養父市大屋町明延 朝来市佐囊	養父市、朝来市
史 跡 名 勝 天 然 記 念 物	史 跡	みょうとくさんこふん 妙徳山古墳	744 m <sup>2</sup>	神崎郡福崎町東田原字妙徳 山 1891 番 1	宗教法人 神積寺
	史 跡	しらすじょうあと 白巢城跡	119,621 m <sup>2</sup>	洲本市五色町鮎原塔下字琵琶 奥 1263 番 1 外	個人 (三野畑町内会)
	史 跡	たけのくちじょうあと 炬口城跡	24,220 m <sup>2</sup>	洲本市炬口字宮ノ上続 97-1 外	個人
	名 勝	すみよしじんじやていえん 住吉神社庭園 すみのえ にわ 「住之江の庭」	482.65 m <sup>2</sup>	丹波篠山市川原字木ノ下 270	宗教法人 住吉神社
	名 勝	ごこくじていえん 護國寺庭園	848.04 m <sup>2</sup>	南あわじ市賀集八幡 732	宗教法人 護國寺
	天然記念物	あびきしつげん 網引湿原	361,828 m <sup>2</sup>	加西市網引町 1856 番 9 外	個人 (あびき湿原保存会)

## 兵庫県指定文化財概説

### 1 いな の じんじや 猪名野神社 ほんでん へいでん はいでん 本殿・幣殿・拝殿 3棟（建造物）（伊丹市）

猪名野神社は、兵庫県伊丹市にあり、荒木村重が築いた有岡城の北端に位置する岸の砦の跡地に立つ。本殿は、棟札より貞享二年(1685)の建設で、隅木入春日造の社殿であるが、側面と背面は二間で、正面のみ中央の柱を立てずに一間とする。身舎を二間四方の規模にしていること、身舎正面に虹梁形頭貫を使用し、庇には頭貫を用いず彫刻の持送りで受ける形式としていること、伊丹郷町の領主であった近衛家による援助で極めて良質な檜材を用いていることに特色がある。



社殿外観

拝殿は、正徳四年(1714)に再建され、寛政五年(1793)頃に大きな改修が施されている。桁行三間、梁間三間の規模で、梁間よりも桁行の柱間を広くして、正面と側面に縁を廻す。向唐破風造の向拝が取り付く中央間は最も広くとられ、縁を設けず、床板の前半分が取り外せ、その下に床板を張って、祭礼時に神輿を安置できるようになっている。幣殿は、文政十年(1827)頃の建設と推測され、桁行四間、梁間一間の規模で、拝殿背面に接続する。猪名野神社の本殿は、隅木入春日造本殿の中世末期に始まる多様な形態を示しており、近衛家の援助を背景とするこの地域の歴史を示す上で重要な遺構である。また、拝殿と幣殿は、近世に入ると増える複合社殿の形式をしだいに整えていったことと、伊丹郷町の祭礼形式を伝えている点に価値がある。

### 2 たいしゃくじほんどう 帝釈寺本堂 1棟（建造物）（香美町）

帝釈寺は兵庫県北部の香住湾西部の下浜の集落の背後に立地する高野山真言宗の寺院である。本堂は建設年代を示す史料がないが、建築技法から見て、再興された天文年間頃の16世紀中期と考えられる。本堂は大規模な五間堂で、全体では約11m四方のほぼ正方形の平面である。前側二間通りを外陣として、その後方の間口三間奥行二間を内陣、その両脇を一間幅の脇陣、背面一間通りは後戸とした中世仏堂形式の平面構成を持っている。



本堂外観

中興期の天文年間頃に建てられ、寛延二年と明治前期の修理を経ながらも、中世の姿をよく保っているといえる。中世後期の顕密仏教系の大規模な五間堂であり、外陣入隅柱を桁行梁で繋ぐ類例の少ない形式をもった、極めて貴重な遺構である。

### 3 <sup>めいしんでんしゃしゃりょう</sup> 明神電車車両 8 輛 (歴史資料) (養父市・朝来市)

明神電車軌道は、明延鉱山（養父市大屋町）から神子畑選鉱場（朝来市佐囊）に鉱石を輸送するための鉱山鉄道であるが、昭和 20 年(1945)に客車が導入され、昭和 24 年(1949)からは従業員の通勤用に客車を連結した運行が始まった。昭和 27 年(1952)には、鉱山関係者の乗車料金が 1 円と定められ、「一円電車」の愛称で呼ばれるようになった。この客車には鉱山関係者以外の乗車も認められており、テレビや新聞などの報道によって広く知られるようになった。



No. 5 電気機関車とわかば号

昭和 60 年(1985)、合理化のため客車の運行が中止、さらに昭和 62 年(1987)3 月、明延鉱山の閉山とともに明神電車軌道も廃止された。

当時、使用されていた機関車、電車、客車、計 8 輛のうち、客車 1 輛は整備され、専用軌道「一円電車明延線」で定期運行されている。明神電車軌道は、鉱石運搬を主目的としつつも客車が設けられるという唯一の鉱山鉄道であり、使用されていた車両がそのまま保存されていることに加えて、うち 1 両は動態保存で、地域において活用されており、その価値を認めることができる。

### 4 <sup>みょうとくさんこふん</sup> 妙徳山古墳 744 m<sup>2</sup> (史跡) (福崎町)

妙徳山古墳は、神崎郡福崎町東田原に所在する。東西方向に延びる山塊から南に延びる尾根先端部に位置する直径約 35m の円墳で、単独で所在する。埋葬施設は右片袖式の横穴式石室で、羨道部を含めた石室長は 12.4m、高さ 3.2m である。石室内部から採集された須恵器片から、6 世紀後半（古墳時代後期）に石室が構築されたと考えられる。



石室内部

天井石の一部が崩落しており、土砂流入が認められるが、石室内部は傾きも無く、墳丘も良好に残っている。

神崎郡内では、現在のところ約 20 基の横穴式石室が知られており、妙徳山古墳はそのなかで最大級の墳丘を持つ。さらに、高さを加えた石室空間では郡内で最大規模を持つことから、埋葬主体は地域の有力首長であったことが推察され、郡を代表する古墳として貴重である。



5 <sup>しらすじょうあと</sup> 白巢城跡 119,621 m<sup>2</sup> (史跡) (洲本市)

白巢城跡は、淡路島中央部の標高 336m の山頂に所在する山城跡である。城域は山頂部を中心に、U 字状に北へ向かって延びる尾根に広がり、東西約 200m、南北約 200m の範囲となる。城域の周囲は堀切や堅堀によって区画され、大きく中央部、北東部、北西部、そして U 字に挟まれた谷部の 4 つに分けられている。



白巢城跡

主郭周辺部では主郭の南を除く三方に曲輪が配置され、東端部の曲輪である通称「馬繫場」に土塁が設けられる。北東部・北西部では、それぞれの北端に位置する曲輪を中心にして、その周囲に幅 10m 程度の小規模な曲輪を配置する。

白巢城跡では発掘調査は行われていないが、これまでに曲輪内で採集された遺物のうち、備前焼すり鉢や青磁香炉片などの 16 世紀の年代観を持つものがあることから、城跡の使用期間は戦国期にあるものと考えられる。また、白巢城跡の規模は、淡路国内の城館跡では最大であり、「本城」「殿の門」「門」等の城館関連地名が残る山麓だけでなく、播磨灘や大阪湾をも見ることができる立地にあることも併せると、白巢城跡は戦国期の拠点的な城館跡であり、淡路国での在地領主権力の成長を示す代表的な遺跡として重要である。

6. <sup>たけのくちじょうあと</sup> 炬口城跡 24,220 m<sup>2</sup> (史跡) (洲本市)

炬口城跡は、淡路島南東部の洲本平野北側の海に面する丘陵頂部に所在する山城跡である。曲輪群は大きく 2 つに分かれ、城域で最大の規模である東西約 80m、南北約 60m の曲輪が主郭である。主郭は平面が方形を呈し、四周には高さ約 3m の土塁が巡る。南北の尾根続きには堀切を設け、城域を画している。土塁は南側ではコの字状に、北側では櫓台を持ちながら屈曲する。主郭内部は南北で 3 つに区画される。一番低い中央部分では東西に虎口（出入口）が城外に向かって開く。西側虎口には 3 条からなる畝状堅堀群が伴う。炬口城跡では発掘調査はなされていないが、畝状堅堀群などの一般的に戦国時代後半に畿内で出現する遺構があることから、遅くとも戦国時代に使用されたものと考えられる。



炬口城跡

炬口城跡は自然地形を活かしながらも、方形を基調とした平面形とし、各所に横矢や櫓台を構築することは、築城主体の高い普請（造成）能力を表しており、戦国時代・織豊期・近世の淡路国での城館の構築技術の展開を考える上で重要である。また、現地の遺構の保存状況は極めて良好である。

7 <sup>すみよしじんじゃていえん</sup> <sup>すみのえ</sup> <sup>にわ</sup> 住吉神社庭園「住之江の庭」 482.65 m<sup>2</sup> (名勝) (丹波篠山市)

住吉神社庭園は、作庭家であり庭園研究家でもあった重森三玲の設計のもと昭和41年に完成した。住吉神社が、大阪住吉大社の分霊であり、祭神が海神であるため、住之江の海浜を主眼として作庭され、「住之江の庭」と名付けられた。

庭園は書院を挟み南側に前庭、北側に主庭がある。前庭は石組を中心とし、サツキの植栽でまとめられた庭であり、主庭へと導く役割を果たす。主庭は、平庭式枯山水庭園である。白砂の中に徳島産青石で組まれた石組は、岩島や船石を表現し、海の荒波を3本の太い白線、小波を砂紋で表現している。



住之江の庭

このように住吉神社庭園は昭和期を代表する作庭家重森三玲の作であり、彼がテーマとし目標とした古庭園からの脱却と永遠のモダンを見事に表現した庭園である。さらに、伝統的な枯山水庭園としての価値も高い。そのため本県における芸術上の価値及び学術上の価値は高く、名勝に指定し保護を図るものである

8 <sup>ごこくじていえん</sup> 護國寺庭園 848.04 m<sup>2</sup> (名勝) (南あわじ市)

護國寺庭園のある護國寺は、隣接する賀集八幡神社のかつての神宮寺であり、平安時代の行教上人の開創と伝わる。作庭年代は江戸時代前期とされ、徳島藩5代藩主蜂須賀綱矩の妹・久米姫が元禄年間に本庭を眺めて詠んだとされる歌が残る。

庭は南側の本堂書院の庭と、その池泉を北側に拡張して作庭された庫裏書院の庭に分かれる。本堂書院の庭は遠山石と力強い滝石組、蓬莱神仙思想を表現した石組が見事であり、庫裏書院の庭は巨石の石橋が豪快な印象を与える。これら、2庭は作庭時期や庭園構成は異なるが、見事に調和し、ひとつの庭園として完成されている。



全 景

このように、護國寺庭園は作庭時代や作庭構成の違う二つの庭園を調和よくまとめているだけでなく、それぞれの庭園において時代を象徴する高い作庭技術と優れた意匠を備えていることに特質がある。また、作庭時期を推定できる資料もあり、江戸時代の当地域における作庭技術及びその特徴をよく示している庭園である。そのため本県における芸術上の価値及び学術上の価値は高く、名勝に指定して保護を図るものである。



9 <sup>あびきしつげん</sup> 網引湿原 361,828 m<sup>2</sup> (天然記念物) (加西市)

網引湿原は加西市網引町にある<sup>しんすい</sup>滲水湿原である。3箇所<sup>の</sup>湿原に別れ、それらの合計面積は2,700 m<sup>2</sup>となる。

湿原は、谷地形に堆積した土砂によって形成され、湧水によって涵養されている。湿原周辺は、加西市の野生生物保護区に指定され、湿原の環境が守られている。

湿原の植物群落はイヌノハナヒゲ群集、ヌマガヤ群落の2群落に大きく分かれ、サギソウやムラサキミミカキグサ等の希少植物が確認されて

いる。また、湿原代表昆虫であるヒメヒカゲ、ハッチョウトンボ、ヒメタイコウチが揃って生息する。「兵庫県版レッドデータブック 2011 (生態系)」において都道府県的価値のあるBランクとして指定される。このように、網引湿原は県内において希少な植物が保全されている湿原であり、その周辺環境も含めた中に多様な生態系が保護されている。このような環境が残された地域は学術上貴重であり、それを維持させていく取組みが官民で積極的に行われている重要な地域である。よって、集水域を含む網引湿原周辺一帯を天然記念物に指定し保護を図るものである。



第2 湿原全景